

内子町の町並みと道の駅

右城 猛

まえがき

愛媛県の内子町は、「木蠟(もくろう)」と「白壁の町並み」として有名であるが、車で通過するだけで立ち寄ったことはなかった。家内から、「日本一繁盛している道の駅が内子町にある。レストランのバイキング料理に行列ができていそうだ」と聞いていたので、一度は見学してみたいと思っていた。

建国記念日の2月11日に家内と一緒に見学してきた。

鳥居元橋

松山から内子町には、松山自動車道を利用した方が早く行くことができるが、時間に余裕があったので久し振りに一般国道56号を走ることにした。

栗の産地で有名な中山町を過ぎて内子町に入ると、国道56号に沿って流れる中山川に屋根付き人道橋が架かっていた。親柱には、鳥居元橋(とりいもとはし)、昭和14年3月完成と記されていた。橋長は約24m、幅員は2m強。

国道を挟んで反対側の山腹には三島神社があり、国道の脇に鳥居がある。このため、鳥居元橋と名づけられたのだろう。



切妻で、屋根は杉皮葺き。一見すると木橋。



木造の桁橋であれば、支間を24mも飛ばすことはできない。河原に降りて下から眺めると、コンクリート桁が3本見えた。桁幅が0.7mなのでPCホロー桁に違いはないと思った。

内子町には屋根付き橋として有名な田丸橋、弓削神社の太鼓橋、下の宮橋がある。いずれも杉皮葺きの木橋である。それを模して作られたのであろうが、維持費のかかるこのような贅沢な橋を作ることはもはや夢となってしまった。

内子町の町並み保存区

内子町は、江戸後期から明治にかけて和紙と木蠟で栄えた商家町である。

八日市・護国の町並みには漆喰で塗り込められた重厚な外壁の商家や土蔵が並んでいる。



有料の「町並駐車場」に車を置き、八日市・護国の町並みを散策する。



八日市・護国の町並み



料金箱に二人分の 400 円を入れ引き戸をから庭園に出る



床屋と書かれた暖簾(のれん)がかかった理髪店



中芳我邸に入ると、書院式の庭園「鶴亀の庭」がある。家内が立っている後方の左側の築山が亀を、長い石が突き出ている右側の築山が鶴を表しているようである。

池には見事な錦鯉が泳いでいる。池の左側に「離れ屋敷」がある。庭の右側にはゲストハウスがあり、中に入って自由に見学できるようになっていた。



旧銀行頭取別邸「中芳我邸(なかはがてい)」の入り口。暖簾を潜って中に入ると、引き戸があり、「料金箱に見学料を投入のうえ お入りください」と書かれた貼り紙と料金箱があった。見学料は一人 200 円。



国指定重要文化財となっている本芳我邸



正門の横の立て看板。本芳我(ほんはが)邸は木蠟(もくろう)の生産で町一番の財をなした豪商・芳我弥三右衛門の屋敷。



本芳我邸の母屋と左側が土蔵。土蔵の海鼠壁(なまこかべ)は、一般的な菱格子模様であるが、母屋の海鼠壁は珍しい亀甲模様となっている。



本芳我邸の中には、手入れが行き届いた庭園がある。写真中央の奥に見える大木は見事。



鬼瓦(おにがわら)と鳥衾(とりぶすま)。鬼瓦は、棟の末端に付ける雨仕舞いと厄除けを兼ねた装飾瓦のこと。鳥衾とは、鬼瓦の上から前方に突き出た円筒形の瓦のこと。こちらの屋根の懸魚には、雲に龍が描かれている。



母屋の懸魚(げぎょ)。懸魚とは、屋根に取付けられた妻飾り。木造家屋を火災から守るため、水に縁のある魚の形をした飾りを屋根に懸けて火伏のまじないとしたのが始まりとされている。魚の身代わりを屋根に懸けることが「水をかける」という意味にも通じている。



本芳我邸の土蔵。浅黄色の漆喰壁には、後々の修繕を考慮して足場を吊すためのL型の金具が取り付けられている。



本芳我邸の土蔵には、芳我家が製造販売していた白蠟の商標である朝日と鶴の懸魚が飾られている。

木蠟とはハゼノキから製造したろう。明治 40 年代がピークで、大正に入ると価格の安い石油系のパラフィン蠟が出てきて市場を奪われた。

木蠟は、今でも関取の鬘を結う鬘付け油、ポマード、チックなどの整髪料、クレヨン、色鉛筆、食品、医薬品、口紅などの化粧品、トナー、インクリボン、CD など OA 機器にも使われている。



旅館・月乃家。1階の障子の下には、バツリ、揚縁などとも呼ばれる床几(しょうぎ)がある。濡れ縁のことである。使わない時には写真のように吊り上げてある。障子の上には上下開閉式の雨戸が見られる。

町並みを散策中に雨足が強くなってきた。土産物店に入って和傘を買う。蛇の目傘や番傘と似ているが、洋傘と同じ材料でできていて、値段も 1150 円と安い。内子は泉和傘製造所がある町。最近では、このような土産物も製造しているのかと店員にたずねると、中国製ということであった。

高昌寺

町並駐車場の傍に、高昌寺(こうしょうじ)という立派な建物のお寺があった。永平寺を本山とする曹洞宗のお寺で、560 年の歴史を持つ。春には涅槃まつりが行われ、「内子のねはんさん」として親しまれているようである。

平成 9 年には長さ 10m、重さ 200 トンの白御影石でできた日本一の大きさを誇る涅槃仏像が安置され、観光の名所にもなっている。



高昌寺の正門



正門の貼り紙に含蓄のある言葉が書かれていた。



日本一の大きさを誇る石造の涅槃仏像

道の駅・フレッシュパークからり

高昌寺を見学し、道の駅「フレッシュパークからり」に着いたのは 11 時過ぎであった。予想していたよりも人出は少なかった。祝日であったが雨が降っていたせいであろう。

道の駅は、国道 379 号が国道 56 号に合流する所にあった。20 数年前、高知から国道 33 号を通過して久万町(現・久万高原町)、小田町(平成の合併で内子町)を經由して妻の実家があった大洲に行くのに良く通った場所である。

既にレストランの開店時間を過ぎていたので、行列ができる前にと考え、まずは昼食を食べることにした。

レストランは、農産物の直売所の中を通り抜けた森の中にあった。イメージしていたのとは異なり、しゃれた建物である。行列はできていないが、ほぼ満席であった。



森の中にある「レストランからり」。地元の食材と旬にこだわった料理が人気。

行列ができるという噂のバイキングを食べる予定であったが、バイキングは土日曜日しかやっていないということであった。

週替りのランチメニューを見ると、A ランチ、B ランチ、C ランチがあったので、料理の数が少なくて値段の安い A ランチを注文した。少ないといっても「ランチメイン + 前菜・サラダバイキング + スープまたは味噌汁 + 白米(雑穀米)またはパン + デザート・コーヒー」という組み合わせ。前菜・サラダバイキングはお変わり自由である。

前菜には、玉子焼き、イワシの煮物、ゴボウのきんぴら、ブロッコリー、菜の花、タコとキュウリの和え物など 10 種類の料理がそれぞれ大皿に盛られてテーブルに並べられていた。

私も家内も前菜をお代わりした。野菜が新鮮で料理がとても美味しかったからである。油を使った料理が少ないのでたくさん食べても胃にもたれないということもある。

隣のテーブルに座っていた二人組の上品な女性も A ランチを食べていたが、前菜を 3 度もとりに行ってみ事にたいらげたのには驚いた。

食事の後、パン工房で焼きたてのパンを、特産品直売所で取れたての椎茸、キャベツ、大ネギ、大根などの野菜を買う。買い物かご一杯買っても 900 円と安いのはびっくりした。



新鮮な農産物が並べられた「からり」の直売所

あとがき

内子町がこれほど魅力的で素晴らしい町であるとは想像もしていなかった。「白壁の町並み」、「高昌寺」、「道の駅・内子フレッシュパークからり」が上手く結びつき、魅力的な観光ゾーンを形成している。

今回は生憎の雨日和で、落ち着いて散策することができなかった。行列ができるというバイキング料理を体験することもできなかった。

高速道路を利用すれば、高知から内子まで 2.5 時間から 3 時間の距離である。天気の良い日曜日か土曜日に再度訪問したいと考えている。

(2010.2.13 記)